

二〇一四年 古文字學論著目

佐藤 信 弥

凡例

- ※1 古文字學に關係する論著のうち、二〇一四年に紙媒體で發行された日本語及び中國語の單著で、かつ基本的に先秦期の出土文獻を扱ったものを集めた。なお、担当人員の不足により、今號から論考の部は暫時停止する。そのかわりとして、紙媒體あるいは電子媒體の發掘簡報・論考等で公表された新出資料を紹介する「新公表の出土文獻」の部を設けた。
- ※2 作成にあたっては、『東方』（東方書店、東京、二〇一四）二〇一五年發行分）及び東方書店ウェブサイト (<http://www.toho-shoten.co.jp/>) を参照した。
- ※3 分類のうち「その他」は、錢幣・璽印・石鼓文など、甲骨文・金文・戰國簡帛の分類にあてはまらないもの、秦漢代の出土文獻を扱ったもののうち特に重要と目されるものなどである。
- ※4 分類のうち「古文字總合」は、甲骨文と金文など複数種の出土文獻について扱ったもののうち、いずれが主か判定しがたいものである。
- ※5 分類のうち「研究動向」は、古文字學の研究を回顧したものや最新の動向について記載したものなどである。
- ※6 分類のうち「専門誌・論文集」は、古文字學・出土文獻學の分野の専門機關が發行する年一〜二回刊の機關誌、同分野あるいは同分野を含む學會の予稿集・論文集などである。
- ※7 日文書についてはそれぞれ著者・編者名の五十音順で並べた。中文書については拼音の順で並べ、著者名等が重複する場合は發行月あるいは書名の發音の順に並べた。また前年以前に發行された論著は各分類の冒頭に追補する。
- ※8 著者・編者が外國籍（中文書については中國・臺灣・香港在住者以外も含む）であるものについては、「」で國名を略示した。
- ※9 日文書の冒頭に☆印が附いているものは、今號の「古文字學研究文獻提要」で紹介しているものである。

日文书

〔甲骨文〕

- ☆陳捷著『甲骨文字と商代の信仰―神權・王權と文化』（京都大學學術出版會、京都、二〇一四年三月）

〔金文〕

- ☆角道亮介著『西周王朝とその青銅器』（六一書房、東京、二〇一四年三月）
- ☆佐藤信弥著『西周期における祭祀儀禮の研究』（朋友書店、京都、二〇一四年三月）
- ・高澤浩一編『近出殷周金文考釋第三集』（研文出版、東京、二〇一四年三月）

〔戰國簡帛〕

- ☆大野裕司著『戰國秦漢出土術數文獻の基礎的研究』（北海道大學出版會、札幌、二〇一四年六月）
- ☆西信康著『郭店楚簡『五行』と傳世文獻』（北海道大學出版會、札幌、二〇一四年四月）
- ・湯淺邦弘著『竹簡學―中國古代思想の探求―』（大阪大學出版會、大阪、二〇一四年五月）
- ・湯淺邦弘著『入門 老莊思想』（筑摩書房、東京、二〇一四年七月）

〔その他〕

- ・角谷常子編『東アジア木簡學のために』（汲古書院、東京、二〇一四年四月）
- ・東洋文庫中國古代地域史研究編『張家山漢簡『二年律令』の研究』（東洋文庫、二〇一四年三月）
- ・富谷至著『木簡・竹簡の語る中國古代―書記の文化史―（増補新版）』（岩波書店、東京、二〇一四年二月）
- ・初山明・佐藤信編『文獻と遺物の境界Ⅱ―中國出土簡牘資料の生態的研究―』（東京外國語大學アジア・アフリカ言語文化研究所、東京、二〇一四年一二月）

〔古文字總合〕

- ・落合淳思著『漢字の成り立ち―『説文解字』から最先端の研究まで―』（筑摩書房、二〇一四年四月）
- ・中國出土資料學會編『地下からの贈り物―新出土資料が語るいにしへの中國―』（東方書店、東京、二〇一四年六月）

〔専門誌・論文集〕

- ・飯島武次編『中華文明の考古學』（同成社、東京、二〇一四年三月）
- ・出土資料と漢字文化研究會編『出土文獻と秦楚文化』第七號（山梨縣立大學國際政策學部名和敏光研究室、甲府、二〇一四年三月）
- ・武田時昌編『術數學の射程―東アジア世界の「知」の傳統―』（京都大學人文科學研究所、京都、二〇一四年三月）

- 中國出土資料學會編『中國出土資料研究』第一八號（中國出土資料學會、東京、二〇一四年三月）

中文書

〔甲骨文〕

- 劉風華著·李學勤主編『殷墟村南系列甲骨卜辭的整理研究』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年五月）
- 劉義峰著『無名組卜辭的整理與研究』（金盾出版社、北京、二〇一四年一月）
- 劉釗主編『新甲骨文編（增訂本）』（福建人民出版社、福州、二〇一四年一月）
- 陸月星著『卜辭月相與商代王年』（上海社會科學院出版社、上海、二〇一四年七月）
- 馬如森著『新版殷墟甲骨文實用字典』（上海大學出版社、上海、二〇一四年五月）
- 牛建軍編著『甲骨文的故事』（中州古籍出版社、鄭州、二〇一四年一月）
- 濮茅左主編『殷商甲骨文』（中西書局、上海、二〇一四年一月）
- 孫亞冰著『殷墟花園莊東地甲骨文例研究』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年三月）
- 王本興著『中國美術 甲骨文詮釋與辨異』（遼寧美術出版社、瀋陽、二〇一四年二月）
- 徐中舒主編『甲骨文字典』第三版（四川辭書出版社、成都、二〇一四年一月）

二〇一四年一月）

- 中國社會科學院甲骨學殷商史研究中心·旅順博物館編著『旅順博物館所藏甲骨』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年一月）

〔金文〕

- 曹錦炎著『鳥蟲書通考（增訂版）』（上海辭書出版社、上海、二〇一四年六月）
- 曹錦炎·吳毅強編著『鳥蟲書字彙』（上海辭書出版社、上海、二〇一四年七月）
- 曹兆蘭·周敏·馬婧如著『圖釋青銅器銘文』（光明日報出版社、北京、二〇一四年五月）
- 董珊著『吳越題銘研究』（科學出版社、北京、二〇一四年一月）
- 郭妍利著『商代青銅兵器研究』（社會科學文獻出版社、北京、二〇一四年二月）
- 湖北省博物館編『大宗維翰 周原青銅器特展』（文物出版社、北京、二〇一四年八月）
- 黃厚明著『商周青銅器紋樣的圖式與功能 以饕餮紋爲中心』（方志出版社、北京、二〇一四年一月）
- 遼寧省文物考古研究所編『遼海記憶 遼寧考古六十年重要發現（一九五四—二〇一四）』（遼寧人民出版社、瀋陽、二〇一四年九月）
- 劉正著『金文學術史』（上海書店、上海、二〇一四年一月）
- 劉正著『中國古文字學導讀 青銅兵器文字』（文物出版社、北京、二〇一四年一月）

- 陸勤毅·宮希成主編『安徽江淮地區商周青銅器』（文物出版社、北京、二〇一四年一月）
 - 陝西省考古研究院·寶鷄市文物旅游局·上海博物館編『周野鹿鳴寶鷄石鼓山西周貴族墓出土青銅器』（上海書畫出版社、上海、二〇一四年一月）
 - 山西省考古研究所·山西博物院·首都博物館編著『呦呦鹿鳴 燕國公主眼里的霸國』（科學出版社、北京、二〇一四年七月）
 - 陝西省考古研究院·上海博物館編『兩周封國論衡——陝西韓城出土芮國文物暨周代封國考古學研究國際學術研討會論文集』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年一月）
 - 蘇州博物館編著『吳鈞重輝 蘇州博物館新入藏青銅兵器』（文物出版社、北京、二〇一四年一月）
 - 王新民著『兩周歷史與兩周文明』（天津古籍出版社、天津、二〇一四年八月）
 - 徐谷甫編著『鳥蟲篆大鑑精裝』（上海書店、上海、二〇一四年一月）
 - 徐堅著『時惟禮崇 東周之前青銅兵器的物質文化研究』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年一月）
 - 楊懷源·孫銀瓊著『兩周金文用韻考』（人民出版社、北京、二〇一四年七月）
 - 張桂光主編『商周金文辭類纂』（中華書局、北京、二〇一四年八月）
 - 張懸鎔著『古文字与青銅器論集 第四輯』（科學出版社、北京、二〇一四年四月）
- 「戰國簡帛」
- 陳慧·廖名春·李銳著『天·人·性 讀郭店楚簡與上博竹簡』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年四月）
 - 陳民鎮·鍾之順·萬德良·張彩華著『上博簡楚辭類文獻研究』（古典文獻研究輯刊第一九編、花木蘭出版社、新北、二〇一四年九月）
 - 陳偉主編『簡帛文獻復原與解讀』（中國社會科學出版社、北京、二〇一四年六月）
 - 董珊著『簡帛文獻考釋論叢』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年一月）
 - 傅榮賢著『出土簡帛與中國早期藏書研究』（知識產權出版社、北京、二〇一四年一月）
 - 李學勤主編、沈建華·賈連翔編『清華大學藏戰國竹簡（壹—參）文字編』（中西書局、上海、二〇一四年五月）
 - 劉國勝編『楚喪葬簡牘集釋』（科學出版社、北京、二〇一一年一月）
 - 劉信芳著『出土簡帛宗教神話文獻研究』（安徽大學出版社、合肥、二〇一四年六月）
 - 濮茅左編著『上海博物館藏楚竹書 孔子詩論·子羔·魯邦大旱』（中西書局、上海、二〇一四年八月）
 - 濮茅左編著『上海博物館藏楚竹書 中弓·弟子問』（中西書局、上海、二〇一四年八月）
 - 濮茅左編著『上海博物館藏楚竹書 周易』（中西書局、上海、二〇一四年八月）
 - 單育辰著『楚地戰國簡帛與傳世文獻對讀之研究』（中華書局、北京、

二〇一四年五月)

• 孫飛燕著『上博簡《容成氏》文本整理及研究』(中國社會科學出版社, 北京, 二〇一四年六月)

• 王志平·孟蓬生·張潔著『出土文獻與先秦兩漢方言地理』(中國社會科學出版社, 北京, 二〇一四年一月)

• 魏慈德著『新出楚簡中的楚國語料與史料』(五南圖書出版, 臺北, 二〇一四年一月)

• 蕭旭編『羣書校補(續)——簡帛校補』(古典文獻研究輯刊第一九編, 花木蘭出版社, 新北, 二〇一四年九月)

• 許景昭著『禪讓·世襲及革命——從春秋戰國到西漢中期的君權傳承思想研究』(上海古籍出版社, 上海, 二〇一四年一月)

• 張伯元著『包山楚簡案例學隅』(上海人民出版社, 上海, 二〇一四年一月)

• 竹田健二「日」著『先秦思想與出土文獻研究』(古典文獻研究輯刊第一九編, 花木蘭出版社, 新北, 二〇一四年九月)

〔その他〕

• 北京大學出土文獻研究編『北京大學藏秦代簡牘書迹選粹』(人民美術出版, 北京, 二〇一四年二月)

• 北京大學出土文獻研究所編『北京大學藏西漢竹書』(伍)(上海古籍出版社, 上海, 二〇一四年一月)

• 陳松長等著『嶽麓書院藏秦簡的整理與研究』(中西書局, 上海, 二〇一四年一月)

• 戴志強·戴越著『古錢文字——中國古文字導讀』(文物出版社, 北京, 二〇一四年四月)

• 高明·塗白奎編著『古陶字錄』(上海古籍出版社, 上海, 二〇一四年九月)

• 國家文物局主編『二〇一三中國重要考古發現』(文物出版社, 北京, 二〇一四年四月)

• 簡牘整理小組編『居延漢簡(壹)』(中央研究院歷史語言研究所, 臺北, 二〇一四年一月)

• 裘錫圭主編, 湖南省博物館·復旦大學出土文獻與古文字研究中心編纂『長沙馬王堆漢墓簡帛集成』(中華書局, 北京, 二〇一四年六月)

• 山東大學歷史文化學院考古學系·山東博物館·新泰市博物館編『新泰出土田齊陶文』(文物出版社, 北京, 二〇一四年一月)

• 天津博物館編『天津博物館藏璽印』(文物出版社, 北京, 二〇一三年一月)

• 浙江省文物考古研究所·平湖市博物館編『平湖莊橋墳址刻畫符號圖集』(文物出版社, 北京, 二〇一四年一月)

• 王儷閣著『中國古代範鑄錢幣工藝』(學林出版社, 上海, 二〇一四年九月)

• 王偉著『秦璽印封泥職官地理研究』(中國社會科學出版社, 北京, 二〇一四年一月)

• 武漢大學簡帛研究中心·湖北省博物館·湖北省文物考古研究所編『秦簡牘合集一——睡虎地秦墓簡牘』(武漢大學出版社, 武漢, 二〇一四年一月)

- 武漢大學簡帛研究中心·湖北省文物考古研究所·四川省文物考古研究所編『秦簡牘合集二 龍崗秦墓簡牘·郝家坪秦墓木牘』（武漢大學出版社、武漢、二〇一四年一月）
- 武漢大學簡帛研究中心·荊州博物館編『秦簡牘合集三 周家臺秦墓簡牘·岳山秦墓木牘』（武漢大學出版社、武漢、二〇一四年一月）
- 武漢大學簡帛研究中心·甘肅簡牘博物館編『秦簡牘合集四 放馬灘秦墓簡牘』（武漢大學出版社、武漢、二〇一四年一月）
- 張顯成主編『秦簡逐字索引（附原文及校釋）增訂本』（一）（二）（四川大學出版社、成都、二〇一四年一月）
- 周祖亮·方懿林著『簡帛醫藥文獻校釋』（學苑出版社、北京、二〇一四年五月）

〔古文字總合〕

- 馮卓慧著『商周民事經濟法律制度研究 卜辭·金文·先秦文獻所見』（商務印書館、北京、二〇一四年七月）
- 高明·涂白奎編著『古文字類編（縮印增訂本）』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年六月）
- 胡樸安著『中國文字學史』（上海科學技術文獻出版社、上海、二〇一四年三月）
- 黃天樹著『黃天樹甲骨金文論集』（學苑出版社、北京、二〇一四年八月）
- 加藤徹「日」著·王超偉譯『加藤看中國——貝與羊的中國人』（青島出版社、青島、二〇一四年七月）

- 李遠明著『春秋時期司法研究 從糾紛解決的視角切入』（中國政法大學出版社、北京、二〇一四年五月）
- 劉志基主編『中國漢字文物大系』（大象出版社、鄭州、二〇一三年一月）
- 劉緒著『夏商周考古探研』（科學出版社、北京、二〇一四年八月）
- 陸思賢著『周易·天文·考古』（文物出版社、北京、二〇一四年一月）
- 龐小霞著『商周之邢綜合研究』（社會科學文獻出版社、北京、二〇一四年六月）
- 平勢隆郎「日」著·周潔譯『講談社·中國的歷史〇二 從城市國家到中華·殷周 春秋戰國』（廣西師範大學出版社、桂林、二〇一四年二月）
- 王國維著·黃愛梅點校『王國維手定 觀堂集林』（浙江教育出版社、杭州、二〇一四年四月）
- 王輝·王偉編著『秦出土文獻編年訂補』（三秦出版社、西安、二〇一四年八月）
- 王巍主編『中國考古學大辭典』（上海辭書出版社、上海、二〇一四年三月）
- 喻遂生著『文字學教程』（北京大學出版社、北京、二〇一四年九月）
- 張富祥著『日名制·昭穆制·姓氏制度研究』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年五月）
- 張光明·徐義華主編『甲骨學暨高青陳莊西周城址重大發現國際學術研討會論文集（二〇一二 中國高青）』（齊魯書社、濟南、二〇一四年七月）

·張連航著『古文字與上古漢語研究論稿』（中國社會科學出版社、北京、二〇一四年一月）

·張亞初著『商周古文字源流疏證』（中華書局、北京、二〇一四年九月）

·張振謙編著『齊魯文字編』（字苑出版社、北京、二〇一四年七月）

·中國考古學會編『中國考古學年鑑二〇一三』（文物出版社、北京、二〇一四年一月）

·中國社會科學院歷史研究所編『古史文存續編』（中國社會科學出版社、北京、二〇一四年五月）

·中華大典工作委員會·中華大典編纂委員會編『中華大典 語言文字典·文字分典』（湖北教育出版社、武漢、二〇一四年二月）

·周清泉著『文字考古 對中國古代神話巫術文化與原始意識的解讀』第二冊·第三冊（四川人民出版社、成都、二〇一四年一月）

·朱鳳瀚等主編『大辭海 文物考古卷』（上海辭書出版社、上海、二〇一四年一月）

〔專門誌·論文集〕

·卜憲群·楊振紅主編『簡帛研究二〇一三』（廣西師範大學出版社、桂林、二〇一四年七月）

·卜憲群·鄔文玲主編『簡帛研究二〇一四』（廣西師範大學出版社、桂林、二〇一四年一月）

·陳致主編『饒宗頤國學院院刊』創刊號（中華書局（香港）、香港、二〇一四年四月）

·丁四新主編·王巧生副主編『楚地簡帛思想研究』第五輯（嶽麓書社、

長沙、二〇一四年一月）

·杜勇主編『叩問三代文明 中國出土文獻與上古史國際學術研討會論文集』（中國社會科學出版社、北京、二〇一四年一月）

·段超·張昌東主編『漢民族與荆楚文化研究 漢民族學會二〇一二年會暨荆楚文化學術研討會論文集』（中國社會科學出版社、北京、二〇一四年六月）

·華東師範大學中國文字研究與應用中心等編『中國文字研究』第一九輯（上海書店、上海、二〇一四年二月）

·華東師範大學中國文字研究與應用中心等編『中國文字研究』第二〇輯（上海書店、上海、二〇一四年一月）

·吉林大學古籍研究所編『吉林大學古籍研究所建所三〇周年紀念論文集』（上海古籍出版社、上海、二〇一四年一月）

·劉毅主編『南開文博考古論叢』（中國社會科學出版社、北京、二〇一四年九月）

·劉玉堂主編『楚學論叢』第三輯（湖北人民出版社、武漢、二〇一四年三月）

·劉玉堂主編『楚學論叢』第四輯（湖北人民出版社、武漢、二〇一四年一月）

·清華大學出土文獻研究與保護中心編·李學勤主編『出土文獻』第五輯（中西書局、上海、二〇一四年一月）

·邵東方「米」編『竹書紀年研究（二〇一一—二〇一三）』（廣西師範大學出版社、桂林、二〇一四年一月）

·宋鎮豪主編『甲骨文與殷商史』新四輯（上海古籍出版社、上海、

二〇一四年一〇月

・王沛主編『出土文獻與法律史研究』第三輯（上海人民出版社、上海、

二〇一四年一〇月）

・武漢大學簡帛研究中心編『簡帛』第九輯（上海古籍出版社、上海、

二〇一四年一〇月）

・西北師範大學歷史文化學院・甘肅簡牘博物館編『簡牘學研究』第五

輯（甘肅人民出版社、蘭州、二〇一四年八月）

・西南大學出土文獻綜合研究中心・西南大學漢語言文獻研究所編『出

土文獻綜合研究集刊』第一輯（巴蜀書社、成都、二〇一四年一〇月）

・廈門大學中文系・中國音韻學會編『中國音韻學暨黃典誠學術思想國

際學術研討會論文集』（廈門大學出版社、廈門、二〇一四年三月）

・中國古文字研究會・中山大學古文字研究所編『古文字研究』第三〇

輯（中華書局、北京、二〇一四年九月）

・中國文化遺產研究院編『出土文獻研究』第一三輯（中西書局、上海、

二〇一四年一二月）

・中國文字編輯委員會編『中國文字』新四〇期（藝文印書館、臺北、

二〇一四年七月）

・中國文字學會《中國文字學報》編輯部編『中國文字學報』第五輯（商

務印書館、北京、二〇一四年七月）

〔研究動向〕

・鄭煒明・胡孝忠編『饒宗頤教授著作目錄三編』（齊魯書社、濟南、

二〇一四年一二月）

新公表の出土文獻

〔金文〕

①曾國關係器銘

・黃鳳春・胡剛著「說西周金文中的“南公”——兼論隨州葉家山西周曾國墓地的族屬」（『江漢考古』二〇一四年第二期、湖北省文物考古研究所、武漢）

湖北隨州葉家山西周曾國墓地M1—1出土銅簋を紹介。西周早期の方座簋。「狁作烈考南公寶尊彝」の銘あり。狁は葉家山出土の別器の銘では曾侯とされており、曾國の始祖が西周王朝の有力貴族南公（南宮氏）であったことを示す。

・湖北省文物考古研究所・隨州市博物館著「隨州文峰塔M1（曾侯與墓）・M2發掘簡報」

・江漢考古編輯部編「隨州文峰塔曾侯與墓」專家座談會紀要」

・凡國棟著「曾侯與編鐘銘文束釋」

・李學勤著「曾侯與（與）編鐘銘文前半釋讀」

・曹錦炎著「曾侯殘鐘銘文考釋」

・李天虹著「曾侯與（與）編鐘銘文補說」

・徐少華著「論隨州文峰塔一號墓的年代及其學術價值」

・張昌平著「隨州文峰塔M1青銅器鑄造技術研究」

・李洋・后加升・樊志威・潘春旭著「隨州文峰塔M1・M2出土金屬器的科學分析」

・方勤著「曾國歷史的考古學觀察」

(いずれも『江漢考古』二〇一四年第四期、湖北省文物考古研究所、武漢掲載)

湖北隨州文峰塔曾國墓地M一より有銘の編鐘や鬲が出土。いずれも春秋晩期の曾侯與のものと思われる。編鐘は完全なものが五件、破損したものが三件、その他残片が四枚ある。銘文はA組・B組・その他(残片の銘文)に分かれる。A組は曾侯與の祖先の事績を記載し、伯适が文王・武王を助けて「殷の命を撻」し、「天下を撫定」したこと、南公が王命により汭土に領土を得て、淮夷に君臨し、江夏の地を統治したこと、「周室之れ既に卑く」なつた後は楚に従い、呉の征伐を受けた際も曾侯が楚王を助けたことなどを記す。B組には「曾侯與曰、余稷之玄孫」とあり、「稷」は后稷を指すと見られる。

・湖北省文物考古研究所・隨州市博物館著「湖北隨州市文峰塔東周墓地」(『文物』二〇一四年第七期、北京)

湖北隨州文峰塔曾國墓地のうち、春秋中期から戦国中期後段までの諸墓葬から出土した諸器銘を紹介。曾國に關する多くの名號が見られるが、このうちM二一出土の「隨大司馬嘉有之行戈」が、隨が曾國の別名であることを示すものとして重要である。

・頂章著「隨州博物館藏曾侯甸鼎」(『文物』二〇一四年第七期、北京) 春秋中期の曾侯甸鼎について紹介。非發掘器銘。

②山西翼城大河口西周霸國墓地

・李建生著「“柶”・“霸”國家性質辨証」(復旦大學出土文獻與古文字

研究中心網站、上海、二〇一四年二月一日、http://www.gwz.fudan.edu.cn/SrcShow.asp?Src_ID=2395)

これまで未公表のM二〇〇二出土土格仲簋を紹介。征伐について記す。

・山西省考古研究所・山西博物院・首都博物館編著『呦呦鹿鳴 燕國公主眼里的霸國』(科學出版社、北京、二〇一四年七月)

霸國と他の諸侯國との交流を示す芮公簋と燕侯旨卣は、發掘簡報(山西省考古研究所大河口墓地聯合考古隊編「山西翼城縣大河口西周墓地」、『考古』二〇一一年第七期)で釋文のみ公表されていたが、本書で初めて銘文の寫眞が公表された。燕侯旨卣は發見時に器内部に七件の小型の酒器が収められていたが、その状態での寫眞も掲載されている。

②その他發掘器銘

・董珊著「山西絳縣橫水M二出土肅卣銘文初探」(『文物』二〇一四年第一期、北京)

山西絳縣橫水西周柶國墓地M二出土の肅卣を紹介。西周中期偏早、穆王期のものとする。裁判に關するもので、肅が兄の伯氏より僕六家を與えられ、伯氏の邑の庶人より選ばせようとしたところ、その邑の人々が強く抵抗し、王命による裁判で裁定が下されたことを記す。

・棗莊市博物館・棗莊市文物管理委員會辦公室・棗莊市峰城區文廣新局著「山東棗莊徐樓東周墓發掘簡報」(『文物』二〇一四年第一期、

北京)

春秋晩期の山東棗莊徐樓東周墓地M一・M二出土器銘を紹介。

M二が潏公、M一がその夫人潏叔子・潏夫人の墓と見られる。M一より「有殷天乙唐孫」宋公盬が潏叔子のために作らせた器が出土している。なお、出土器銘の釋文は以前より李學勤「棗莊徐樓村宋公鼎與費國」『史學月刊』二〇一二年第一期）などで紹介され、宋公の名の鬲字の釋讀が議論されていた。

・白曉銀著「陝西周原遺址新出土的青銅器」『考古與文物』二〇一四年第三期、陝西省考古研究院、西安)

周原の各所より出土の大父鼎・庠伯簋など比較的短銘のものを紹介。

③非發掘器銘

・黃錫全著「新見小臣唐簋簡析」(中國古文字研究會・中山大學古文字研究所編『古文字研究』第三〇輯、中華書局、北京、二〇一四年九月)

西周早期の器銘。射禮のことを記すが、「王使小臣唐射、克

小臣闋。用作寶」と比較的短銘。

・曹錦炎著「宗人鼎銘文小考」(吉林大學古籍研究所編『吉林大學古籍研究所建所三〇周年紀念論文集』、上海古籍出版社、上海、二〇一四年一月)

西周中期の器銘。伯或父という人物がおそらく妻に當たる凡姫のためにこの器を作らせたところ、凡姫が「宗人」(夫の同宗の人)

に「用て汝の嫡の彝器と爲せ」と、夫の宗廟の彝器としたことを記す。

・吳鎮峰著「懋尊・懋卣考釋」(復旦大學出土文獻與古文字研究中心網站、上海、二〇一四年六月一六日、http://www.gwz.fudan.edu.cn/SrcShow.asp?Src_ID=2296)

西周中期の器銘。「穆王在鄭」と穆王の號が見える。内容は作者懋への賞賜と蔑歴について記す。また本文中に吳鎮峰編『商周青銅器銘文暨圖像集成續編』(發表當時未刊行)から、やはり未發表の同時期の銘文旂伯簋を引用するが、こちらは釋文の一部のみで、器影・銘文拓本等の圖版は掲載しない。

・吳鎮峰著「晉公盤與晉公盞銘文對讀」(復旦大學出土文獻與古文字研究中心網站、上海、二〇一四年六月二二日、http://www.gwz.fudan.edu.cn/SrcShow.asp?Src_ID=2297)

春秋早期偏早の器銘。晉公盞と同様の内容であり、銘文が明晰でない晉公盞を補う材料となる。ただし王恩田「晉公盤辨偽」(復旦大學出土文獻與古文字研究中心網站、上海、二〇一五年三月三日、http://www.gwz.fudan.edu.cn/SrcShow.asp?Src_ID=2457)では、この銘を偽銘とする。

・吳鎮峰著「邕尊銘文初探」(復旦大學出土文獻與古文字研究中心網站、上海、二〇一四年七月二九日、http://www.gwz.fudan.edu.cn/SrcShow.asp?Src_ID=2311)

殷代晩期の器銘。三六文字と、殷代のものとしては長銘。王による饗酒について記す。

・李廣安著「湖北谷城出土許國青銅器」(『文物』二〇一四年第八期、北京)

湖北谷城城關鎮邱家樓春秋早期墓地出土とされる。

・劉餘力著「倉端王義鼎銘文考釋」(『文物』二〇一四年第八期、北京)

戰國晚期、秦統一以前の秦王政の時期のもの。

〔竹簡〕

・趙平安著「《厚父》の性質及其蘊含的夏代歴史文化」

・李均明著「清華簡《殷高宗問于三壽》概述」

(いずれも『文物』二〇一四年第一二期、北京掲載)

清華大學出土文獻研究與保護中心編、李學勤主編『清華大學藏

戰國竹簡(伍)』(中西書局、上海、二〇一五年四月)所收の文獻

について。

・張興國・周創華・鄧建強・張春龍著「湖南益陽兔子山遺址二〇一三年發掘收穫」(国家文物局主編『二〇一三中國重要考古發現』、文物出版社、北京、二〇一四年四月)

遺址中の古井戸一簡所より、戰國晚期から三國吳までの簡牘

一三〇〇〇枚が出土。各時代の益陽縣の行政文書が中心で、「天

下失始皇帝、皆遽恐悲哀甚」から始まる秦二世皇帝即位直後の木

牘J9③1など、主要な簡牘の概要と圖版を掲載。

〔その他〕

・蔡全法著「新鄭鄭韓故城出土戰國牛肋骨墨書帳簿考」(『華夏考古』二〇一四年第四期、河南省文物考古研究所、鄭州)

河南新鄭鄭韓故城の灰坑より發見。牛の肋骨上に墨書された戰國時代の帳簿。計四五本の肋骨が發見され、うち三九本に文字が存在。多くが両面に文字がある。このうち四本の釋文を掲載。

(立命館大學白川靜記念東洋文字文化研究所客員研究員)

